

9月15日

JA3AA 島伊三治

9月15日にまつわる思い出は非常に多くあります。正確には9月15日とその前後の2日間ですが15日のXPO記念コンテストに代表されるように、その全ては30年前の大阪万国博(EXPO-70)の特別記念局JA3XPOに端を発します。

1970年3月15日からの6か月間の万博会場におけるJA3XPOの長期運用はアマチュア無線界にとってはあらゆる面で画期的な出来事でした。まずアマチュア無線が社会的に大きく認知された時といっても過言ではないと思います。

万博以前と以後では社会的な認知度に格段の差が



ありました。会期の終盤でした、ボーイスカウトの子供達を案内してきた当時の大阪市長の中馬さんがJA3XPOの前で、市長ご自身でアマチュア無線の説明をされたのには驚きました。

何度も会場へ足を運んでおられるうちに、興味を持たれたことと思いますが、忘れ得ぬ光景の一つです。次に無線機が万博を契機に格段に良くなりました。公開運用というかJARL会員で従事者免許をもっていれば記念局の運用が出来るという先鞭をつけたのもJA3XPOでしたが、これは無線機メーカーにとっては脅威だったと思います。各社の機器が比較されること、運用委員がついてはいるもの毎日入れ替わり立ち替わり、初心者も含め多くの方が無線機を使用する従来にない形をとるの

ですから、使い良さ、堅牢の度合いを含め対応が大変だったと思いますが、結果的には電氣的、機械的にもよくなりました。なお八重洲のFT-101が実用に供されたのもこの万博からでした。その万博が終わったのが9月13日、さよならパーティというか73ミーティングが行われたのが9月15日で、この日を記念して翌年からXPO記念コンテストが始まりました。

ついでながら地方支部主催のコンテストで参加対象を全国規模としたコンテストの嚆矢でもあります。

この万博記念局JA3XPOの運用委員として活躍していただいたJA3AJ小川さんがサイレントキーとなられたのが万博閉幕日と同じ9月13日、お通夜が15日と何か因縁めいたものを感じながら50年来の友を見送りました。

出会いの不思議

V63UB (JA3UB) 三好二郎

9月7日遅めの夏休みをマイクロネシア(ポンペイ)で過ごすべくJA4HCK馬場さんと関空からグアム経由ポンペイへ向かいました。機中に馬場さんが知り合いの元教諭から「30数年前にマイクロネシアへ移住した教え子がいるので消息が分かれば」と言われてきたということでした。

定刻通り深夜にポンペイに到着、雨季のため土砂降りの中、タラップに備えられた傘をさしてターミナルビル(掘建て小屋)へ、ナウル航空等の航空会社が路線撤退してからは四つの主な島からなるマイクロネシア連邦を結ぶ唯一の航空路はコンチネンタル航空に委ねられ住民達の生活物資を運ぶ手段となっています。乗客の荷物だけではなく貨物も多く、それらを手作業で防水シートをかけてエッチラオッチラと運びベルトコンベアやターンテーブルもありませんからずいぶん時間がかかります。フライトは多い日でも2便ですが普段は無人です。

先着のJH8BKL/JF81YR河瀬夫妻の出迎えてホテルへ着いたらバタンキュー。早起きして現地時間午前11時までのオールアジアコンテストに参加しました。

昼食は日本人がやっている回転すし屋スタイルのところがあるということで一度覗いてみることにしました。日本料理以外の品もありターンテーブルに乗って回転していますのでメニューを見てあれこれ考えることもなく昼食は定額で食べ放題でインドネシア、その他の国籍の客で賑わっていました。

此処でふと、馬場さんが機中で話していた「尋ね人T.Aさん」のことを思い出しました。ご本人の馬場さんはこのことをすっかり忘れていました(笑)。お店のマダムに聞いてみたところウチの主人の弟が「T.A」という同じ名前マイクロネシアテレコムの子社長をしているが本人に電話してもらったところ、なんと間違いなく「尋ね人」。その人テレコムCEO/ゼネラルマネージャー秋永氏でした。

彼は超多忙で殆どオフィスには居ないが、その時々居たということで翌日はアメリカへ出張するが翌日の夜は時間があるのでホテルへ会いにくるということになりました。

またまた不思議(偶然)な出会いに遭遇したなあと一同顔を見合わせました。電話の後マダムと色々話をしていると、なんと河瀬さんが20年ほど前に初めてポンペイを訪れた際に雨でびしょ濡れになり風邪をこじらせて肺炎を起こしそうになった時に親切に面倒をみてくださった日本人のオバサンが秋永氏のお母さんであることも分かりました。食後、年寄りの私は睡眠不足を取り戻すべく「シエスタ」をむさぼることにしました。

翌日の夜、約束の時間に秋永氏はキャベラックに乗って我々を訪ねてきました。初対面にも関わらず不思議な縁で話が弾み深夜まで及びました。そして彼も学生時代にアマチュア無線をやっていたことがあり当地においてもKC6CWでオンエアしていたとのことでした。

休暇を直島とアマチュア無線を楽しむためには南の島までやってきたのですから、50メガもFT-655と4エレハ木アンテナの装備でQRV予想通り数時間バンドがオープンしてハイルアップ捌きを堪能し多くの友人ともコンタクトしました。日本との交信は他のメンバーに任せて専らヨーロッパを相手。特にWARCバンドではスワッドにしないと捌ききれない時もありました。

此処には大まな観光スポットはありませんが唯一謎の遺跡「カドール」は今回も陸路で見学しました。その他はレンタカーでスペイン、ドイツ、日本各々の統治時代の痕跡を見て回りました。

それらの統治時代の後、戦後国連信託統治でアメリカの施政下を経て独立しましたが通貨は米ドルです。名産品は椰子油の石鹸。日本人が育てた胡椒ですが後継者難で減少傾向にあります。雨季にもかかわらず今回は天候も良く大阪よりも涼しい南方での夏休みでした。

帰国時は9月11日ということもあってセキュリテ

ィチェックが厳重になっているうえに、空港にはX線検査装置もなく全て手作業ですから大変です。検査係のオネエちゃん私の「珍しい持ちモノ」を興味深げにラグチューを楽しみながら検査していました。

グアムでのトランジット時間が長かったので空港から街中へ出かけて散策しました。

[沢山の写真を5頁に掲載]



メンバーのシャック紹介 JA3BOA

私がハムに興味を持ったきっかけは、昭和29年頃、小学生4年生の私が自作の真空管式ラジオを製作しラジオを聞いていたら、JA3FE、井上さんのBCIが飛び込み英語交じりの少し理解できない・・・でも面白そうな話をしていたので非常に興味を持ち超再生受信機を作りSWLを始めました。当時の7MHzの電話は7050と7087.5(?)KCの2波だけの運用が許可されている時代でした。その後同じ吹田市にJA3MD 大津さんが28MHzのAMでDXをやっておられ、ある日、見学させてもらったら、遠く南米の局などと流暢な英語で交信されるので感銘を受け海外との



通信(DX)に興味を持ち始めました。自分自身が海外と初めて交信したのは1961年の春、オーストラリアのVK4NGとでした。そのときは自身が英語の劣等生であったので、それは滅茶苦茶な英語でした。それ以来、海外交信(DX)にノメリ込み、拳句の果てには、DXをやるには何よりもロケーションが一番大切と思い始め3回も住む場所を変えました。今は住まいとは別に無線小屋を小野市郊外に設置し、週末になると車で30分かかる無線小屋に出かけDXを楽しんでいます。今の無線局設置場所の特徴は、小高い丘の上であり都市雑音が全くない事と、すぐ東側に落差50mの深い谷が南北に走っていることです。このせいか、カリブ海やロングバスのアフリカには抜群に飛んでくれます。その他の方向も水田ですので5-9月は水面反射が期待出来



ますので飛びは悪くありません。タワーは愛知タワー工業のATK-28、クランクアップを設置、その上にブーム15m長の5エレ八木アンテナ(14,21MHz)とブーム10m長6エレモノバンドを上げています。無線機等の設備は写真の通りです。この40年余り、海外と交信することで海外に沢山の友達ができ、我が家に泊まっていった海外の友達を数えるとデンマーク、ドイツ、スイス、英国、フィランド、アメリカ、オーストラリア、カナダ人達です。逆に私の家族もオーストラリアへ行った時は3家族のハムの家に泊めてもらい10日間の旅をしたり、自身ではアメリカを主として数え切れないハム仲間と交流を向こうで深めてきた事が良い思い出であり、今後もお金と体力が続く限りそうして行きたいと思っています。最後にこの趣味を理解してくれた家族に感謝したいと思います。特に2人の子供は(今は成人していますが)、学生時代は、どこに引越しても家に帰るときは自転車を降りて押して帰らアカンとよくぼやいてぼやいていました。また家内のJH3CIB、博子も彼女の時代から免許を取得し、よきハムの理解者であり、ハムの友達が我が家に遊びに来てくれた時、ハム談義の輪に入ってくれるので助かっています。

英国軍の短距離光通信機

JA3AER 荒川泰蔵

仮に光通信機と名づけましたが、光ファイバーを使うインターネットなどのモダンな通信機ではなく、第2次世界大戦中に英国軍が野戦で使用していた、文字通り電球を点滅させて行う通信機のことです。この装置は英国滞在中に入手したのですが、イングランドのコスフォード(Cosford)空軍基地に隣接した航空宇宙博物館(The Aerospace Museum)にも同じものが展示されています。

外観は写真1の通りで、幅22.0cm、高さ21.5cm、奥行き16.5cmの鉄製ケースに布地のカバーとショルダーベルトがついています。内部は2つに分かれ、上部がそれぞれ蓋になって



いて、写真2のように右側の蓋を開けると、蓋の裏に電鍵が固定されています。そして箱の中には投光器と、それを支えるポール3本(スパイク及び延長スタック)が収められています。左側の箱には付属品やスペアパーツが入っていますが、電源用バッテリーを納める場所でもあるようです。

写真3はそれらの付属品を取り出して並べたものですが、バッテリーを継ぎ電鍵をたたくと、電

球が点滅して信号を送れるように配線されています。そして、すぐそばのプレートには上記のような注意が書かれています。



GIVE A SERIES OF DASHES INSTEAD OF A STEADY EXPOSURE WHEN CALLING FOR LIGHT, OR SHOWING LIGHT. USE THE PLUG IN No.1 SOCKET AS LONG AS THE LIGHT IS GOOD ENOUGH, THEN CHANGE TO No.2

即ち、ライトの呼び出またはライトの位置を示すとき、点灯し続ける代わりに点滅の連続にしてください。ライトの明るさが十分である間はプラグをNo.1ソケットで使用し、それからNo.2に切り替えてください。というものです。

これは多分電池の節約を意味するのですが、なぜかこのセットはプラグをNo.2の位置にしか挿入できません。

写真4の投光器の大きさは直径10.0cm、奥行きが10.5cmで、中にステムのついた特殊な電球(10V)がセットされ、後ろに放物線のミラーがついていて、前方に水平な光を出せるようになっています。前のガラスは簡単に取り外せ、後で述べる調光板が容易にセットできるようになっています。上



の棒状に見えるサイトチューブは十字型のスロットを持つ覗き穴があり、通信の相手方の位置に光線の方向を決めるのに用いるものです。右下に見える蝶ねじを緩めると、ヘッド部分が前後左右に回転させられ、自由に光線の方向を変えられるよう良く出来ています。尚、銘板には右のような表示があります。

LAMP
SIGNALLING
DAYLIGHT
SHORT RANGE
No. A22639
1941

投光器は付属の3本のスタック(長さ18.0cm)をねじで継ぎ合わせて取り付けますが、一番下(写真5の左下)が先の尖ったスパイクで地面に突き立てるようになっています。これを地面に突き立てると投光器が約50cmの高さになります。



付属品の中に、もうひとつ小型の投光器がありました。写真6のような形状で、直径4.0cm、奥



行き5.0cmです。後ろの板がフック状になってどこかに吊るされるようになっています。上のボタンはスイッチで押しON、離すとバネで戻りOFFになります。そして押しながら右に回すとONでロックできる構造です。このコードの先端

All Asia コンテスト 裏街道

JA3AOP 杉山 暁

私も All Asia コンテスト (アジアと全世界との交信) に参加しました。

9月6日土曜日、I-House ロールコールのあと JA3BOA/ 乾さんとお話した後、それでは頑張りますよとコンテストへ、14、21MHzで「CQ」出しても応答は芳しくない。専ら呼びまわりに、間もなく VK2XT(Australia)Bill から 5990 を貰って 90 歳の Ham life 楽しんでくださいと声援を送ると「お祝い有難う!」の元気なお声で いい気分コンテストをスタートしたのですが、局数は伸びません。

遅めの昼飯 こうなりゃ、チラシ寿司でも作るか料理にとりかかる。食べ終わってしばらくは 至福の時...

午後、14MHzで JA3USA/ 島本さんの快調な Running を聞か、こちらはサッパリ、10 倍の送信電力とアンテナとロケーションの差かな〜...

短波放送局の邪魔の少ない早めの時刻にこちらは 7MHz へ、北米方面から少し応答あるが周波数割当ての関係でアメリカとは同じ周波数で送受できないので送受の周波数を変えての交信が何もなかった。局数も少ない。

まあ、ぼちぼちマイペースでやりましょうと夕方からは 3.8, 7, 14, 21MHz を行ったり来たり。机の横の窓を開けて半袖でやっていると涼しくなってきたくしゃみの連続、VOX(

音声による自動送受切替) をかけているとき、くしゃみを抑えるのってつらい! VOX きて、ハ〜ックション〜...。ヘッドセットが飛んでいきそうに。3.8MHz では JA3PYC/ 山本さんのお声を聞きました。

夜、7MHzで しょぼしょぼやっていると JA3USA/ 島本さんからお声がかかって「ワインが無くなるまで、もうちょっと頑張ってみます」とお別れして.. 14MHzでヨーロッパに向けて「CQ」「CQ」すると、ZS(南アフリカ)から呼んでくれる。えっ! アンテナの方向は真横を向いてるよ。

うちのロケーションは北東から南西に向けて小川が流れ谷筋になっているのでこの方向に空間が開けている。やっぱり、地形か!

結局 3時過ぎにはワインのお陰で気持ちよくおやすみ〜...

日曜日 朝、目覚めると枕もとにアラームセットした携帯電話がない。わき腹の横に転がっていた。顔だけ洗って飲み物とパンを机の横に持ち込んで 8時45分 JST 再開。 28MHzからはじめるが局数が少ない。21MHzでやるが依然しょぼしょぼした調子。お昼過ぎには外のベンチで昼食。ビールがうまい。シャワーが気持ちいい。今日はシエスタとしやれ込もうか。いや単なる不寝寝。

16時 JST 再開。21MHzで JA3BOA/ 乾さんと JA3USA/ 島本さんが並んで快調にヨーロッパ方面と交信をされている。JA3AER/ 荒川さんもヨーロッパを呼んでいらっしゃる。

1発で応答あり! あっ、荒川さんとは1歳違いだ。年齢をコンテストの「交換ナンバー」に入れるのってなかなか面白い。初めての局でも同い年だと「5965 also」なんて なんとなく親しみこめて送る



と向こうも「5965 also」と応えてくれる。そのあと当方も呼ぶが何回か空振り。荒川さんとは確か同じ装置。う〜ん、やっぱり裏の山を削るしかないか! なんてことを思いながら、それじゃロングパス(地球の逆回りルート)は無いかと反対方向にビーム振って裏街道へ! 局数は少ないが XE(Mexico), TI(Costa Rica) などマルチをゲット。

島本さんの親戚コール USA というコールサインが聞こえてくる。ZK1USA (South Cook Is.) をゲット。しかも Thank you AKI. とこちらの名前までご存知とは感激。並んで FO(French Polynesia) もいただく。

裏道にもちょっとはいいことあるよ! 私のもうひとつの趣味はオフロードドライブだ、裏街道が似合っているのかもね。犬も歩けば棒にあたる?

18時 JST 過ぎに 7MHzで K3ZO(アメリカ・Maryland) Fred とできて、今晩は徹夜で頑張るぞ〜。今日はワインをやめてウイスキー。

真夜中過ぎてから、局数はあまり増えないがヨーロッパのマルチを 7、14MHzでいただく。Z2(Zimbabwe) も 1発コールで応答あり。今日は途中でダウンすることなく夜明けを迎える。早朝、JA3USA/ 島本さんのお声を聞く。

終了まであと 5分、PZ5RA(Suriname) を発見、コールするもアメリカから呼ぶ局の壁が厚い。そこへ JA3USA 現れる。1発で通る。島本さんは ASIA contest 参加中ということで、コンテスト・ナンバーもいただいてニューマルチをゲット!

その後私も交信できましたが、ときすでに遅く 0005z タイムオーバー 残念なり。

Wonderful Hawaii 7 Radio(WH7R) 局と JA3USA 局

JA3AOP 戦績			
MHz	QSOs	Points	Multi
3.8	21	82	6
7	59	115	20
14	94	248	41
21	80	196	35
28	8	48	7
total	262	689	109
Score			75,101

とおしゃべりを聞かせていただいたり、いつものことながら JA3BOA 乾さんとのインフラの差をつくづくと感じたり、「腹がへっては戦が出来ぬ」と料

理に重点が移ったりと、裏街道もたまたまコンテストでしたが、私なりに楽しませていただきました。さて、コンテスト終わって I-House-ML での皆さんの書き込みが楽しみ...

I-House-ML から、JA3USA 局 822 交信、JA3BOA 局 21MHz シングルバンドで 600 局オーバー、JA3NHL と JA3FGN は JL3YDR 局 (Little Field DX Club 大阪箕面市) から短時間で 286 局。皆さん凄いな〜。

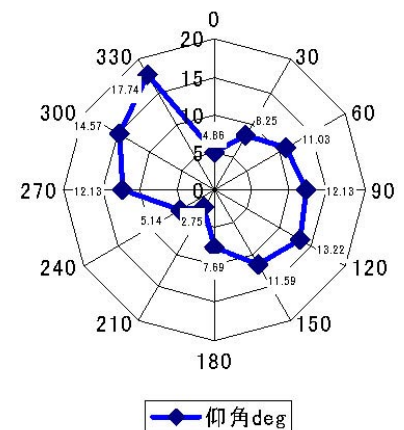
でも、JA3BOA 局は 600 局を超えたがアフリカが無いとか、これだけはちょっと勝った気分。全大陸と交信出来たので記念にコンテスト WAC 賞を申請してみます。

コンテスト参加の世界の各局有難う! I-House 各局拙文に引用させていただきます有難うございます。失礼の段、ご容赦お願い致します。

設備

JA3AOPから周囲の山を見た仰角

仰角vs方位



送受信機: YAESU FT-1000MP-MK5 200W
アンテナ: 3.8/逆V ダイポール, 7/2 エレメント
HB9CV, 14 21 28/4 エレメント Yagi

大阪国際交流センターラジオクラブ

JI3ZAG

Web: <http://ja3.net/ihouse>

Newsletter

http://www.ja3.net/ji3zag_nl

会報を自由にダウンロードすることができます

ロールコール

毎週土曜日 9:00JST@14.160MHz

月例会

大阪国際交流センター
毎月第2金曜日

Page 2 から続く

には大型投光器と同じ2ピンのプラグがついていることから、代替として使用できるし、また別にある電池に直結されたソケットに差し込んで、上部のスイッチを電鍵代わりに操作すれば、電鍵の故障時にも代替で使用でき、場合によっては大型投光器とは別の方向に向けて、別の通信を同時に行うことができなくともありません。しかし、これは考えすぎで、単に送信原稿や電鍵操作の手元を照らす照明用なのかも知れません。



写真7のように、もう一方の蓋を開けると付属品やスペア-パーツが入っていますが、電源を継なく端子

付きのリード線2本が隣の箱から出ていますので、この部分には電池が入るものと思われます。蓋の裏側には写真8の如く大きな銘板が貼られていて、取り扱い方や注意事項が書かれています。その内容は下記の通りです。

LAMPS, SIGNALLING DAYLIGHT, SHORT RANGE.

LAMP CAN BE USED EITHER (1) ON THE SPIKE AND SPIKE EXTENSION STUCK IN THE GROUND OR (2) IN THE HAND IF NECESSARY, OR (3) WITH THE ADAPTOR PROVIDED ON A STANDARD HELIO LAMP. SIGHTING TUBE. IT IS IMPORTANT TO SEE THAT THE LAMP IS SO ALIGNED THAT THE DISTANT RECEIVING STATION IS AT THE CENTRE OF THE CROSS SLOTS AND MAINTAINED IN THAT POSITION THE WHOLE TIME SIGNALS ARE BEING SENT. BULBES. WHEN FITTING A NEW BULB, INSERT WITH THE LOCATING TONGUE ON THE WASHER TO THE FRONT AND PUSH THE STEM RIGHT BACK IN THE SLOT. BATTERIES. THE CORRECT REPLACEMENT UNIT FOR THIS SET IS 8 "S" CELLS CONNECTED IN SERIES, SCREW UP BOTH TERMINAL NUTS TIGHTLY, AND SEE THAT ALL CELL CONNECTORS ARE IN POSITION. NIGHT SIGNALLING. AN ADJUSTABLE SCREEN IS SUPPLIED FOR REDUCING THE LIGHT AND ONE OF THE COLOUR DISCS SHOULD ALWAYS BE USED IN CONJUNCTION WITH IT WHEN SIGNALLING AT NIGHT UNDER ENEMY OBSERVATION. KEY CONNECTION. USE THE TWO-PIN PLUG IN No.1 SOCKET AS LONG AS THE LIGHT IS GOOD ENOUGH, THEN CHANGE TO No.2, THIS WILL GREATLY LENGTHEN THE LIFE OF BULB. USED BULBS AND BATTERIES SHOULD NOT BE REPLACED IN BOX, BUT DISCARDED AND A FRESH SUPPLY OBTAINED. GET A COPY OF DETAILED INSTRUCTION "HOW TO USE" THIS SIGNALLING OUTFIT. ⇒ KEEP LENS, MIRROR, BULB AND FRONT GLASS CLEAN.

ランプはスパイク及び延長スタックで地面に設置するか、場合によっては手で持つが、標準回光ランプに付属のアダプターをつけて使うことが出来る。サイトチューブ：受信局が十字の中心に来るように調整すると、光線がその方向に向く。信号を送る間は常にその状態を保つこと。電球：新しい電球を挿入する時は、ワッシャーの突

起がある方を手前にしてステムをスロットの中に押し込む。

電池：このセットの正しい交換電池は8ケのS電池を直列につないだもので、両極のナットを強く締め付け、全ての電池のコネクターが正しい位置にあるか確認する。

夜間交信：光を弱めるための調整可能なスクリーン(調光板)があります。敵が見ている夜の送信は常にカラーデスクの一つを併用すること。

電鍵の接続：2ピンプラグは光が十分である間No.1ソケットで使い、それからNo.2ソケットに変える、これが電球の寿命を延ばすことになる。

使用済みの電球やバッテリーは箱の中に入れてはならず、処分して新しい部品を手に入れること。この通信機の詳しい使用法"HOW TO USE"を入手すること。レンズ、鏡、電球、前面ガラスはきれいにしておくこと。

説明にあるS電池とは、残念ながらどのようなものかわかりません。また、付属品の一つである調光板(調整可能なスクリーン)は写真9に示すようなもので、6個の小さな穴があいた2重構造のスクリーンになっていて、右側に見えるレバーを動かすことで片方のスクリーンが回転し、カメラのシャッターのように穴の大きさを連続的に変化させることができるようになっていて、このパネルを投光器の前面ガラスを外して簡単に挟み込めるようになっています。説明に書かれているカラーデスクは紛失したのか見当たりません。

スペア-パーツの黒い箱 (SPARE PARTS MK.11.)



には油紙で包まれた電球3ケ(写真10)と小型投光器用の豆球が1ケ入っていました。

投光器の中についていた電球のベースには EDISWAN, ENGLAND 10V "A" 93 と黒インクで表示がありますが、スペア-用の電球3ケにはそれぞれ次のような表示があります。

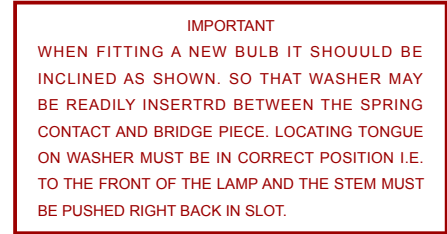
- 1) SEMENS 10V "A" (黒インク)
- 2) B. E. L. 10V "A" (黒インク)
- 3) OSRAM MADE IN ENGLAND 10V "A" GEC LTD, PATENT (刻印)

全てが違うメーカーで作られたものであることが興味のあるところ。SEMENSの捺印の最初のSは不鮮明で想像したのですが、SEMENSはドイツのメーカーで、まさか敵国で作るはずがないでしょうから、間違いかも知れません。EDISWANは通信機の、OSRAMは真空管のそれぞれ英国の会社ですが、B. E. L. はどこでしょうか。

そして、これらの予備電球を入れていたスペア-パーツのケース (SPARE PARTS MK.11.) の蓋の裏には写真11のように電球の差し込み方が印刷されています。これは印刷した紙を貼ったのでは



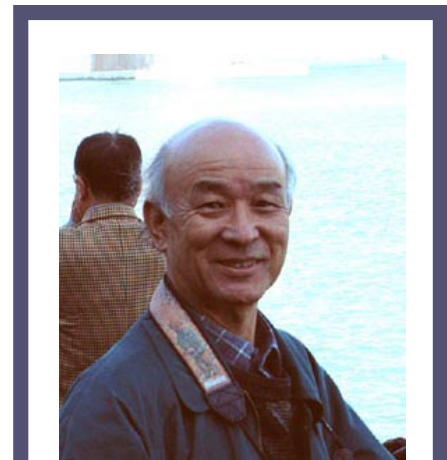
なく、黄色いペイント(白色が変色した可能性もある)を一面に塗布した上へ、黒色のインクで印刷されています。



書かれている文章は左記の通りですが、重要という表記で次のような内容です。

新しい電球を挿入する時は、図に示すように傾けると、ワッシャーは容易にバネの接点と橋渡しの金具の間に差し込める。ワッシャーの突起の部分は正しい方向に向ける、即ち、手前に向けステムをスロットの中に押し込む。

このセットは電鍵のコレクターであるK氏に請われて譲る予定ですが、屋外で実際にどの程度の距離まで届くのか実験など、更なる観察/研究はK氏に委ねたいと思います。



JA3AJ 小川さん

S.F.にて (JA3XPO 30周年同窓会)

島会長と共に昨夜のお通夜に引き続いて本日午後JA3AJ 故小川さんと最後のお別れをさせていただきました。

小川さんとはアイハウスラジオクラブ発足の土台となったEXPO'70の(我國最初の)特別記念局JA3XPOでもずっと御一緒でした。

小川さんは島さんとはアマチュア無線再開以前からの付き合いであり又JAで最初にSSBモードの免許を取得された方でもありました。昨年の再開50周年記念行事や今年の関ハムにも病を圧して参加され京都府電波適正推進協議会会長としても責任を全うされました。

先日V6へ出かけた際も小川さんのV6300免許更新手続きをしまして、また御一緒出来たら良いなあとの願いも叶いませんでした。

今は只々御冥福を祈るのみです。

合掌
de JA3UB 三好二郎 (2003年9月16日)



V63UB (JA3UB)
in Micronesia